

令和 6 年 6 月 27 日現在

機関番号：34317

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2020～2023

課題番号：20K22044

研究課題名（和文）南太平洋島嶼国における伝統的住居の建設をめぐる在来知と発展的継承に関する調査研究

研究課題名（英文）Safeguarding vernacular architecture knowledge in the South Pacific

研究代表者

藤枝 絢子 (Fujiiead, Ayako)

京都精華大学・国際文化学部・講師

研究者番号：60598390

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：南太平洋島嶼国では、自然環境、社会文化環境に適した地域固有の伝統的住居を有する。しかし、村落を取り巻く状況は変化し、伝統的住居は減少の一途を辿っており、建設をめぐる在来知は消滅危機にある。そこで、本調査研究では、フィジー共和国とバヌアツ共和国を対象とし、村落における伝統的住居の建築をめぐる在来知とその継承方法を明らかにするとともに、大工養成プログラムを有する技術訓練学校を事例に、新たな継承機会の創出の場となりうるかを検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

フィジー共和国やバヌアツ共和国の村落では、現地の人々から伝統的住居の消滅への危機感や次世代への継承の関心が聞かれ、現代の状況に即した新たな維持継承の検討が求められてきた。本調査研究では、伝統的住居の建設する知識や技術、また自然資源へのアクセスや共同労働など日常に織り込まれた知恵や工夫、技能やそれらの継承方法における村落単位での地域固有性は明らかとなり、村落における活きた保存の必要性を提示した。標準化やマニュアル化が難しいことが確認された一方で、技術訓練学校ではサステナブル建築に関心が高く、地域資源の利用、環境に適した性質などの観点からの大工訓練プログラムへの導入の可能性が示唆された。

研究成果の概要（英文）：In the South Pacific island nations, there are traditional dwellings that are suited to the natural and socio-cultural environments. However, the circumstances surrounding villages are changing, and traditional dwellings are on a steady decline, with indigenous knowledge related to their construction facing the threat of extinction. Therefore, this study focuses on the Republic of Fiji and the Republic of Vanuatu to elucidate the indigenous knowledge regarding the construction of traditional dwellings in villages and the methods of its transmission. Additionally, using technical training schools with carpenter training programs as a case study, the research examines whether these schools can serve as venues for creating new opportunities for knowledge transmission.

研究分野：地域建築学

キーワード：南太平洋島嶼国 フィジー共和国 バヌアツ共和国 伝統的住居 在来知 技術継承 技術訓練学校

1. 研究開始当初の背景

太平洋島嶼国の村落では、自然環境、社会文化環境に適した地域固有の伝統的住居を有してきた。これらは特にヴァナキュラー建築と呼ばれる類のものであり、現地の人々の知識や技術、自然資源を最大限に活用し、所有者やコミュニティによって建設される¹⁾。申請者は、これまでフィジー共和国 (以下、フィジー) やバヌアツ共和国 (以下、バヌアツ) において、伝統的住居の再建プロジェクトに参画するなかで、伝統的住居の建設は、建築物を建設する知識や技術だけでなく、村落コミュニティの日常の中で蓄積されてきた知恵や慣習、技能などの動員によって実現することを確認した。本研究では、これを「伝統的住居の建設をめぐる在来知」とする。

現在の村落では、伝統的住居は減少の一途を辿っている。伝統的住居の建設をめぐる在来知が消滅危機にあり、再建プロジェクトにおいても、現地の人々から消滅への危機感や次世代への継承の関心が聞かれてきた。しかし、すでに新建材住居が普及した村落で伝統的住居を住居として再び建設し利用することは難しく、現代の状況に即した新たな維持維持を検討する必要がある。

そのなかで、新たな可能性とされるのが、一つは観光やサイクロンシェルターとしての利用を目的とした村落内における新たな建設の動機付けと建設機会の創出、もう一つは教育機関などを通じた村落外での継承機会の創出である。これまでの再建プロジェクトは前者を目的としてきたが、個々の村落では継続的な建設が創発されたものの限定的であり、特に政府関係者などからは後者への関心が示されてきた。このような背景のなかで、本研究では、明示的な知識の教授・習得が主となる教育機関は、地域固有性や暗黙知の特徴を有する在来知の新たな継承の場となり得るのか、を「問い」としたい。

2. 研究の目的

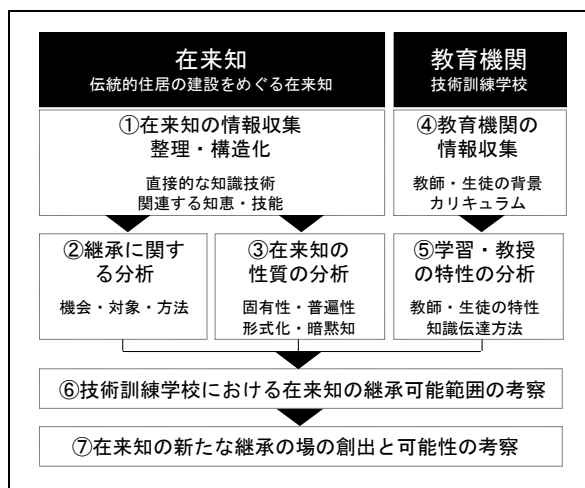
本研究では、フィジーとバヌアツの伝統的住居を対象とし、建設をめぐる在来知の新たな継承機会の創出を視座に、大工養成プログラムを有する技術訓練学校を具体例とし、在来知の性質 (後述の①-③) と教育機関の特性 (後述の④⑤) から、その可能性を検証すること (後述の⑥⑦) を目的とする。近年、消滅への危機が認識され始め、建設のプロセスの記録、科学的評価などが試みられている。しかし、これらは実態把握に留まっており、本研究の新たな継承の機会創出への着目は新規的であり、ここから得られた知見は、伝統的住居の維持継承に資する実践的側面からも意義があると考えられる。また「地域固有性や暗黙知の特徴を有する在来知」と「形式化された知識の教授・習得が主となる教育機関」を前提としつつも、それぞれの特性を精査し、重なり方を探る視点は新規的なアプローチである。

3. 研究の方法

本研究では、フィジー・ビチレブ島内陸部のナバラ村とガウ島のレナケル村、バヌアツ・タンナ島のミドルブッシュ地域にて現地調査を実施した。また技術訓練学校については、フィジー先住民省管轄の適性技術開発センター (Center for Appropriate Technology and Development) とフィジー国立大学の技術訓練プログラム、バヌアツ教育訓練省管轄のタンナ島の農村訓練学校 (Rural Training Centre) で行った。

具体的には、右の図に示すように、フィジーおよびバヌアツを対象に、建設をめぐる在来知に関して、①在来知の情報収集、整理・構造化、②継承に関する分析、③在来知の性質の分析、教育機関に関して、④教育機関の情報収集、⑤学習・教授の特性の分析、①から⑤をふまえ、⑥技術訓練学校における在来知の継承可能範囲の検証、および、⑦在来知の新たな継承の場の創出と可能性の考察をおこなった。

しかし、バヌアツでは2023年3月にカテゴリ4およびカテゴリ5の2つのサイクロンに見舞われ、当初予定していた調査は一部実施できなかった。



4. 研究成果

伝統的住居の建設をめぐる在来知

フィジーおよびバヌアツの村落の伝統的住居を対象に、使用する樹種、特定の自然資源を加工する技能、設計のための知識、建設行程、屋根や壁の葺き方や棟仕舞いの技術などを記述、整理した。いずれも村内の自然資源や人的資源によって建設されており、建物の形状が類似していても、選定される樹種、屋根や壁の葺き方や棟仕舞いが多様なことが明らかとなった。また、同じ

村内においても、サイクロンや環境変化により特定の樹種や葺材の入手が困難な場合は代替種を利用する、また加工の手間や時間的制約によって簡易な方法を用いるなど、ニーズや状況に応じて変更されることがわかった。

フィジーおよびバヌアツの村落では、いずれも伝統的住居の建設や屋根の葺き替えの経験を通じて、知識や技術を共有し、技能を習得していることを確認した。いずれも村内の共同労働によって行われるが、フィジーでは、村会議で伝統的住居の建設や屋根の葺き替えを決定し、村の半数以上の男性が従事するなど村としての活動であり、バヌアツでは、通常、住居の所有者がそれらを決定し、所有者とその家族、近親者が従事するものであった。伝統的住居が集落として残るナバラ村では、2016年サイクロン・ウィンストンやコロナの影響で中断していたが、2022年、2023年と各年10以上の屋根が葺き替えられており、毎年もしくは数年に一度繰り返すとともに、その都度、比較的若い世代のものをリーダーとして任命するなど、知識や技術が次の世代に受け継がれる仕組みを確認した。コミュニティホールとしてブレを建設している事例でも、5年から10年に一度の割合で建て替えや葺き替えが行われ、村内で知識や技術を共有する機会が創出されていたが、ナバラ村と比較すると作業機会が少なく、建設当時からリーダーを担っている年長者が不在となった場合、継続することが容易ではないことが示唆された。

教育機関による大工訓練プログラム

フィジーの適性技術開発センターは先住民省の管轄下の村落開発を目的とする人材育成のための教育機関であり、大工訓練コースでは先住フィジー人の若者を対象とし木造住宅の建設について学ぶ座学と実践を組み合わせたプログラムを提供していた。フィジー国立大学職業訓練にあたる大工訓練のサーティフィケートプログラムを提供するとともに、約80の高校と連携し大工訓練プログラムの支援を行ない、また、村落での持続可能な生活の実現を視座に、コミュニティベースの短期トレーニングを提供していた。バヌアツ教育訓練省管轄のタンナ島の農村訓練学校の大工訓練コースでは、島内の若者を対象とし木造住宅の建設について学ぶ座学、近隣の村落の住宅建設の実践を組み合わせたプログラムを提供していた。いずれも対象とするのは、現在の村落で普及している非伝統的な製材とトタン屋根を用いる木造住宅であった。マニュアルの利用や学校内での工房での実技とともに、村落での建設実践、コミュニティベースの短期トレーニングなど村落との繋がりのある大工訓練プログラムがみられた。

新たな継承の場の可能性

伝統的住居は、村内で入手可能な自然資源を利用して継続的に建設・修繕され、それらを通じて知識や技術を共有されることにより維持・継承されてきた。形態や技術に類似性や共通性があるものの、個々の村の文脈に依存し成立しているため地域固有性が高く、標準化やマニュアル化が難しいことが確認された。

バヌアツの対象地では、伝統的住居の数は減少しているが、現在もほとんどの村に存在しており、伝統的住居の建設の知識や技術は村で習得できるものであり、農村訓練学校は非伝統的な木造住宅に関する知識や技術の習得できる場として求められていた。フィジーでは、村落開発において、新たな技術を導入しながら在来資源を活用した持続可能な技術の提供が目指されており、大工訓練プログラムにおいても木材や土など現地で調達可能な資源の利用、耐災害性の高くセルフビルドが可能な住宅建設という観点から、伝統的住居の知識や技術、技能を教授する可能性が示唆された。

伝統的住居の一般的な住居利用が減少の一途を辿るなか、コミュニティホールやサイクロンシェルターとしての役割、文化的意義を見出し、本調査研究でも村落内に建設し維持されている事例を確認した。このような場合、村に唯一の伝統的住居である場合が多く、建設や屋根の葺き替え作業などの機会は限定され、作業に伴う知識や技術の習得や向上が十分であるか懸念が示された。村落の人々の視点からの知識や技術の記録や可視化、自然環境が類似し緊密な関係のある近隣村落との知識や技術の共有や掘り起こしなど、従来の方法ではない現地での継承方法などが今後の検討課題として挙げられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Fujieda, A., Nishijima K., Kobayashi H.,	4. 巻 -
2. 論文標題 Comprehensive Approach to Sustaining Vernacular Architecture in The Local Context: Case Study in Tanna Island, Vanuatu	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Proceedings for the international conference on Earthen and wood vernacular heritage and climate change	6. 最初と最後の頁 110-115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Ayako Fujieda
2. 発表標題 Cultural Significance and Conservation of Traditional Wooden Architecture in Fiji
3. 学会等名 The Endangered Wooden Architecture Programme (EWAP) conference (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 藤枝絢子
2. 発表標題 バヌアツ離島集落におけるコミュニティベースのサイクロン対応
3. 学会等名 国際開発学会 国際開発学会第24回春季大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤枝絢子
2. 発表標題 フィジーにおける新たな伝統木造住居の建設技術継承可能性の検討
3. 学会等名 国際開発学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ayako Fujieda
2. 発表標題 Exploring the potential of traditional housing
3. 学会等名 Pacific Climate Change Center Virtual Climate Resilience Innovation Exhibition 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Fujieda A., Nishijima K., Kobayashi H.
2. 発表標題 Comprehensive Approach to Sustaining Vernacular Architecture in The Local Context: Case Study in Tanna Island
3. 学会等名 International conference on Earthen and wood vernacular heritage and climate change (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤枝 絢子
2. 発表標題 地域コミュニティのレジリエンスの多遍性 (pluriversality) -バヌアツ の離島における自然災害のレジリエンス
3. 学会等名 国際開発学会第22回春季大会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Fujieda A
2. 発表標題 Sustainability of vernacular architecture in the Modern Context
3. 学会等名 The 12th International Convention of Asia Scholars (ICAS 12). (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------